

令和6年度 八王子市立松木小学校 学校経営計画

校長 河村 真奈美

はじめに

平成6年4月に開校した本校は、今年度で30周年を迎える。これまで、保護者や地域、歴代の卒業生や教職員が協力して築いてきた学校の歴史と伝統を守るとともに、新たな未来へつなげていく節目の年となる。これまで以上に学校のもつ使命を自覚し、児童の「生きる力」の育成に向けて保護者、地域、社会から信頼される学校を創っていかねばならない。

地域運営学校（H23年度 学校運営協議会設置）であることから、学校運営協議会を学校運営の重要な意思決定の場（プロセス）とし、保護者や地域の意見を反映させながら学校経営を行っていく。

1 目指す学校像

- 1) 児童に学ぶ力と社会性を身に付けさせるとともに、小学校を卒業し6年後に成人となる児童が、社会・地域の形成者としてよりよく生きていくための基礎・基本を学ばせる。
- 2) 八王子市の公立学校として、国や都の教育方針や市の教育目標を踏まえながら、適切な教育課程のもと公教育を推進する。
- 3) 地域運営学校として、学校・保護者・地域が連携・協働しながら教育活動を充実させ、地域貢献を意識し、地域とともにある学校づくりを目指す。

2 目指す児童像

【学校教育目標】 **ま** 松木を愛する子 **つ** 強い心と身体の子 **ぎ** 協力する子

- 1) 地域の良さを知り、地域に愛着や誇りをもって積極的にかかわろうとする
- 2) 意欲的・主体的に学ぶ
- 3) 自分で考え、自分の意見をもち、表現する
- 4) 大事なことを見極め、正しい判断をする
- 5) 運動に親しみ、健康や安全に気を付けて生活する
- 6) 自分も他人も大切にする
- 7) 集団や社会の規律を守って行動する

3 目指す教職員像

- 1) 児童に対して深い愛情を注ぎ、熱意と使命感をもって教育に励む
- 2) 児童のよさや可能性を引き出し、伸ばし、自己肯定感を高める
- 3) 正しい人権感覚をもち、児童の立場に立って考え、気持ちに寄り添った指導をする
- 4) 教育公務員としての高い倫理観と社会的常識を身に付ける
- 5) 組織の一員としての責任感や協調性を有し、互いに高め合う
- 6) 教育活動において自己の力を十分に発揮し、充実感を得る

4 令和6年度の重点取組目標

- 1) 開校30周年を迎えるにあたり、日々の学校生活や行事などを通して、学校や地域を大切に、自分なりに貢献しようとする態度を育てる。
- 2) どの子にも居場所をつくり、すべての教職員が、困った時に相談できる大人の一人になれるよう寄り添うとともに、学校に限らず社会の誰かとつながれるよう支援する。
- 3) 児童が義務教育9年間で修了する際に、最低限身に付けておかねばならない基礎基本を習得できているよう、各学年において指導すべき内容を確実に指導する。
- 4) いじめの認知件数が昨年度よりも減少するよう、教職員のいじめに関する感度をさらに磨き、早期発見、組織的な対応、事後の手厚い見守りができるよう、学校いじめ対策委員会をこれまで以上に機能させる。
- 5) 松木中学校グループ（松木中、長池小、松木小）における小中一貫教育の更なる推進に向けて、生徒と児童の交流の場を多く設ける。

5 中・長期的な取り組み目標と方策

(1) 確かな学力の定着

①授業改善 「教師は授業で勝負する」

授業を充実させるための努力を惜しまず、児童にとって楽しく、分かる授業を実現する。

【方策】⇒ ○主体的・対話的に、見方・考え方を働かせた深い学びの実現に向けた授業づくりをする。

○学力・体力調査における分析結果から課題を明確にし、授業改善につなげる。

○常に、計画（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・改善（Action）のPDCAサイクルを意識して取り組む。

②基礎・基本の定着 「分かった！できた！を実感させる」

「個別最適な学び」に取り組ませることを通して、すべての児童に基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせる。

【方策】⇒ ○支援の必要な児童には重点的に個別指導を行う。

○個に応じて指導方法・教材や学習環境等を柔軟に提供する。

(①②指導の個別化)

○個に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する。(学習の個性化)

○学習用端末をはじめICT 機器の活用スキルの向上を図り、授業の中で効果的に活用する。

③体力の向上

将来を担う児童にとって、生きる力の極めて重要な要素である体力の向上を図る。

【方策】⇒ ○楽しくて夢中になれる授業、体の動かし方やうまくするためのコツがわかる授業を工夫する。

○学期ごとに行う体力向上の取組（1学期：長縄 2学期：持久走 3学期：短縄）を工夫・改善することで、体力づくりや運動に親しむ態度を育てる。

○外遊びの励行やたてわり班遊びなど、体を動かす機会を積極的に設ける。

④新しい課題に対応した教育の推進

プログラミング教育、E S D教育（SDGs）、キャリア教育、ソサイエティ 5.0に向けた人材育成などの教育課題について、取り組む。

【方策】⇒ ○教育課題を整理して担当を置き、出張研修や自己研さんの成果を学校全体に周知・還元していく。

○総合的な学習の時間を中心に、各教科・領域の学習において、意図的・計画的に教育課題を取り入れていく。

○学校コーディネーターと連携し、ゲストティーチャーを招いて授業を行うなど、外部人材を積極的に活用する。

(2) 豊かな心の醸成

①人権教育の推進と道德教育の充実

児童一人一人が発達段階に応じて人権の意義や内容、重要性について理解し、自他を大切にする行動につなげていけるようにする。「特別の教科 道德」を中心に心の教育を行う。

【方策】⇒ ○教科指導、生活指導、学級経営などを通して、人権が尊重される学習活動づくり、人間関係づくり、環境づくりに努める。

○人権教育プログラム（研修冊子）、外部講師を活用して人権に関する研修を行い、教職員の人権感覚を磨く。

○「特別の教科 道德」の授業や教育活動全般を通して、あいさつや礼儀、善悪の判断、思いやりの心、規範意識などを身に付けさせる。

○道德授業地区公開講座では、公開授業や意見交換会を通して家庭や地域における道德教育を啓発し、学校・保護者・地域が一体となって児童の健全育成に取り組む。

②いじめ防止・いじめ対応の強化

いじめは絶対に許さないという教職員の共通認識・指導のもと、児童が安心して楽しく通える学校を実現する。

- 【方策】⇒
- 児童の小さな変化も見逃さないための教職員の意識と感覚を高める。
 - 学校いじめ対策委員会（木曜日：6校時）を毎週確実に実施し、組織的にいじめの予防、早期発見・対応・解決に取り組む。
 - 「八王子市のいのちの大切さを共に考える日」の取組、いじめ防止のための授業、代表委員会を中心とした自治的な活動を通して、いじめを許さない心情と態度を育てる。

（３）特別支援教育

どの子も能力を最大限に伸ばすため、一人一人に応じた合理的配慮を行い、適切な支援が行われる環境を整備していく。

- 【方策】⇒
- 特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会や特別支援教育に関わる研修を通して、教職員の特別支援への理解を深める。
 - 児童理解を深めるとともに、特別支援の視点から一人一人の特性を踏まえ、日々の授業において具体的な支援や工夫、改善を行う。
 - 特別支援教室（チャレンジ）における指導を充実させるとともに、指導のスキルやコツを各学級での指導に生かす。

（４）不登校対応・支援

魅力ある学校づくりを進める中で、児童の自己肯定感を高める。誰一人取り残されない学びの保障に向けて、児童一人一人の教育ニーズに寄り添った支援を行う。

- 【方策】⇒
- 児童に寄り添い、共感的理解と受容の姿勢をもち、子供の自己肯定感を高める。
 - 児童や保護者を孤立させないための支援体制づくりとして、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療、福祉機関等と連携し、組織的・計画的な支援を行う。
 - 学級以外に落ち着ける場所を作り、登校支援コーディネーターを核とした支援員による支援体制を確立する。

（５）小中一貫教育

義務教育修了時に向けて、児童一人一人の個性や能力の伸長を図るために、義務教育９年間を通じた小中一貫教育を推進する。

★松木中学校グループにおける育てたい児童・生徒像

人のつながりを大切にし、進んで地域にかかわる児童・生徒

- 【方策】⇒
- 松木中学校グループにおける「小中一貫教育に関わる具体的な取組計画」に基づき、小中一貫教育の具体的な取組を推進する。
 - 小学校段階で身に付けるべき力を、学習および生活の点から整理し、同じ中学校区の長池小学校とも連携、協力しながら系統的に身に付けさせる。
 - 望ましい中学生の姿をキャリア目標とするために、学校行事や職場体験、地域行事などの場を活用して、積極的に中学生と関わらせる。

（６）学校運営協議会と協働した学校運営

保護者や地域の声を学校運営に積極的に生かし、地域とともにある学校づくりや、課題解決に向けた取り組みを効果的に進める。学校運営協議会を中心とした「子供」を支える体制を充実させる。

- 【方策】⇒
- 地域に開かれた、信頼される学校を目指して、教育活動を積極的に公開し、評価をもとに改善を図る。（PDCAサイクル）
 - 学校評価アンケート（年２回）を適正に実施し、学校運営協議会で協議・検討の上、次年度の教育課程に生かす。
 - 学校運営協議会が中心となって、児童が参加できる地域行事や居場所を設

け、地域に愛着や誇りをもつ子、地域の一員として積極的にかかわろうとする子を育てる。

6 信頼される学校づくり

都民、市民からの信頼を損ねることのないよう、常に教育公務員であることを自覚するとともに、将来の日本を担う子供たちの教育に携わること誇りをもって職務にあたる。

【方策】⇒ ○議論の中心は、常に「児童」であり、児童にとって良いこと、プラスになることを追究する教職員集団であり続ける。

○教職員が個々の力を発揮しつつ、集団として結束して教育活動を行う。

○服務事故防止に向けて、研修等を通して一人一人が倫理観を磨き、社会常識を身に付ける。

○教職員間に、ハラスメントや確執を生まない職場づくりを目指す。